

## 小学校 体育科 部会

部会長名 落合小学校 校長 角崎 計介  
大任小学校 校長 杉原 哲彌  
実践者名 採銅所小学校 教諭 西田 貴治

### 1 研究主題

体育科における学習指導の工夫と授業評価について  
～言語活動の充実と診断的・形成的・総括的評価を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 社会の要請と今日的な教育の動向から

現代の社会は、経済や科学技術の発展と高度情報化にともない急速に変化し、子どもを取り巻く社会環境の変化はますます激しくなっている。そのような中で次代を担う子どもたちは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、歴史や伝統を継承しつつ、異なる文化や歴史に立脚する人々を尊重し共存することなど、変化に対応する資質がいっそう求められている。しかし、PISA調査や全国学力調査の結果によると、子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分身につけていないことがあげられている。

これらの状況をふまえ、中央教育審議会でも審議・答申が行われる一方、教育基本法や学校教育法が改正された。そして、新学習指導要領が今年度から実施されるようになった。この新学習指導要領は、子どもたちの状況をふまえ、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を踏襲した物である。とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成し、学習に取り組む意欲を養うことを重視し、バランスのとれた学力の育成を目指したものになっている。今回の指導要領改訂にあたって充実すべき重要事項の第1として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

国は、「体力は人間の成長・発達を支え、人として創造的な活動をするために必要不可欠なものであり、『生きる力』の極めて重要な要素である」とし、今こそ体力向上に取り組むことの重要性を指摘している。また、教育力向上福岡県民会議の第一次提言では、「学ぶ意欲が高い子ども」「自尊感情の高い子ども」「規範意識の高い子ども」「体力等のある子ども」をめざしていくことを福岡の教育ビジョンとしている。

すなわち、体育科学習においても、子ども一人一人が自分で課題を見つけ、主体的に楽しく運動を継続するような能力と態度や、友だちと共感することのできる温かい心やコミュニケーション能力、そして、それらの基盤となる体力や健康を身に付けることが重要であると考えられる。

#### (2) これまでの体育科学習指導の反省から

これまでの私自身の体育科学習指導を振り返ると、教師主導の学習指導に終始してしまったり、場の工夫だけに目がいってしまったりと、子どもの実態や意欲に応じた指導や思考力・判断力・表現力を育成する指導が行われていたとは言い難い。

そこで今回、子どもたちの実態や意欲を調査し、思考力・表現力を育成しようと考え、本研究主題を設定した。具体的には、診断的評価を行い実態把握を行いそれをもとに学

習計画を立て、形成的評価で子どもたちの意欲や学習成果を調査して授業改善に生かし、総括的評価で授業のまとめを行いたい。また、言語活動を充実させる工夫としては、子どもたち同士の学び合いの場や話し合いの場を確保することで思考力・判断力・表現力の育成の場としたい。

### 3 主題の意味

#### (1)「学習指導の工夫」とは

学習指導は、学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の理解を低次のものから高次のものへ変化発展させる目的意識的な活動である。今回の学習指導要領の改訂により、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動をするとともに、その際言語活動を充実させてそれらの能力を育成することが重視されている。ここでいう学習指導とは、言語活動を通し知識・理解を活用して、思考力・判断力・表現力を高める活動を言う。つまり、体育科の授業の中でいかに言語活動を仕組み、思考力・判断力・表現力を高める工夫のことである。

#### (2)「授業評価」とは

体育科における評価とは、観察により子どもたちの技能の高まりや態度の様子を見取ったり、学習カードや話し合い活動などでどんなことを考えているかを評価していく。そして、指導と評価を一体としてとらえ、それを次時の指導に生かしていく。このサイクルをくり返している。

一般的に評価とは、子どもたちの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回は、前述した観察や学習カード以外にも客観的なデータを収集して分析することにより、学習の進め方や授業の改善に生かすこととした。

#### (3)「言語活動の充実」とは

体育科における言語活動の場というのは、やはり「教え合ったり、学び合ったりする場」や「チームでめあてや作戦を話し合う場」であろう。もちろん今までの体育の学習でもそういう場は仕組んできたのだが、なかなかうまくいかなかったり、教師側の意識が重点的でなかったりしてきた。うまくいかなかったときの理由としては、子どもたちの「何て言えばいいかわからない」という声に表されるように、見る視点を与えていなかったり、話し合いや教え合いの場にもっと積極的に関われなかったりといった反省が挙げられる。今回の指導要領改訂に伴い、言語活動が重視されている。時間をしっかり設定し、見る視点を与えて、言語活動をいつも以上に充実させていく。

#### (4)「診断的・形成的・総括的評価」とは

診断的評価...学習指導の事前に行う評価のことで、どのような指導方法を実施するのか、どのような個別指導を行うのかを明らかにすること。学習内容に関する経験調査やレディネステストなどをさす。

形成的評価...学習指導の事に行う評価のことで、到達状況やつまずきの状態をとらえて、学習指導の修正や個別指導への対応を見直すこと。

総括的評価...学習指導の事後に行う評価のことで、目標への到達状況を測定し、今後の指導方針を立てたり、指導方法の反省等に生かしたりすること。

#### 4 研究の目標

体育科学習における、言語活動の充実を図る取り組みと授業評価を生かす取り組みについて究明する。

#### 5 研究仮説

体育科学習において、次のような学習指導の工夫や授業評価をすれば、言語活動の充実や指導方法の改善に生かされるであろう。

「教え合い・学び合いの場」での視点の提示や時間の確保

「話し合いの場」での作戦ボードの工夫や積極的な教師の関わり方

診断的・形成的・総括的評価を生かした指導方法の確立や改善

#### 6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名「動いて、ねらって、ナイスシュート！」(ゴール型ゲーム)

(2) 単元の目標及び指導計画

単元名	動いて、ねらって、ナイスシュート！	総時数	8時間	時期	1月
単元の目標	基本的な技能(パス・ドリブル・シュート)やボールを持っていないときの動きを身につけ、攻めたり守ったりすることができる。(技能)				
	進んで練習に取り組んだり、ゲームに参加したりすることができる。友だちと協力しながら準備や後片付けをしたり、教え合ったり励まし合ったりして学習を進めることができる。(態度)				
	自分やチームの課題が分かり、その課題解決に向けた練習をすることができる。 チームの特徴を生かした簡単な作戦を立てることができる。(思考・判断)				
次時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)		
1	体の動かし方を知ることができる。	1 オリエンテーション ・学習のねらい ・学習の進め方 ・運動のイメージ 2 試しの動きをする。 ・パス・ドリブル・シュート 3 ドリルゲームをする。 ・的当てシュートゲーム ・四角パス ・ボール回し鬼ごっこ ・ランパス ・3 on 2 3 試しのゲームをする。	・学習の進め方やルールを知らせ、運動に関心を持たせる。 ・ドリルゲームやミニゲームを通して、運動の楽しさを味わわせる。 【評価規準】《評価方法》 技能 ・ボールを投げたり、捕ったりすることができる。 ・相手が捕りやすいパスをすることができる。《観察》 態度 進んで取り組もうとしている。《観察》 思考・判断 ・自分たちのチームの課題について考えている。《観察・学習カード》		
	基本的な動きを身に付けることができる	1 学習の準備とめあての確認をする。 ・チームごとに準備運動を	・友だち同士で教え合ったり、支え合ったりする大切さを伝える。 ・良い動きをしている子どもは賞		

2	3 4 5	<p>る。</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に気をつけ、用具等の準備をする</li> <li>2 ドリルゲームやミニゲームをする。</li> <li>・内容については、2時目に行ったものをそれぞれのチームでローテーションしながら行わせる。</li> <li>3 ゲーム を行う。</li> <li>・相手チームとペアチームの確認をする。</li> <li>4 ペアチームでゲームの話し合いをする。</li> <li>5 ゲーム の反省を生かしながらゲーム をする。</li> <li>6 ペアチームでゲームの話し合いをする。</li> <li>7 それぞれのチームで今日のゲームを振り返り、次時の課題を明確にする。</li> </ul>	<p>賛し、積極的に取り組めない子どもに対しては、具体的な助言をしたり、動き方を示したりする。</p> <p>【評価規準】《評価方法》</p> <p>技能</p> <p>1次と同じ</p> <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと協力し合い、安全に気を付けて場づくりや用具の準備後片付けをしている。《観察》</li> </ul> <p>思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアチームや自分のチームの課題をとらえ、それを伝えたり、克服するためにどうするか考えたりしている。《観察・学習カード》</li> </ul>
3	6 7 8	<p>簡単な作戦を立て、ゲームに生かすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学習の準備とめあての確認をする。</li> <li>・チームごとに準備運動をする。</li> <li>・安全面に気をつけ、用具等の準備をする。</li> <li>2 ドリルゲームやミニゲームをする。</li> <li>・内容については、自分たちの課題に応じたものを行わせる。</li> <li>3 ゲームの相手を確認し、チームにあった簡単な作戦をたてる。</li> <li>4 ゲーム を行う。</li> <li>5 チームタイム</li> <li>・ゲーム の様相を振り返り、作戦を工夫したり、チームの課題に応じた練習をしたりする。</li> <li>6 ゲーム を行う。</li> <li>7 それぞれのチームで今日のゲームを振り返り、次</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・攻め方や守り方に関して、必要に応じた助言を行い、作戦に関するアドバイスを行う。</li> <li>・作戦がうまくいったチームを紹介することで、作戦の工夫に目を向けさせる。</li> <li>・チームタイムの時に作戦ボードを活用させることで、作戦をたてやすくさせる。</li> </ul> <p>【評価規準】《評価方法》</p> <p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらった場所にボールを投げることができる。</li> <li>・スペースに動き、パスを出したりもらったりできる。</li> <li>・早く戻ってディフェンスすることができる。《観察》</li> </ul> <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと積極的に関わり合い、声をかけたり、励まし合ったり、運動の様子を伝えたりしている。《観察》</li> </ul> <p>思考・判断</p>

		時の課題を明確にする。	・チームで話し合い、チームに合った作戦を立てている。 ・ゲームを振り返り、作戦を見直したり、練習を工夫したりしている。《観察》
--	--	-------------	--

## 7 指導の実際

授業前に行った診断的評価によると、下の表のようになった。

項目	結果		+	0	-
たのしむ(情意目標)	13.67		15.00~13.64	13.64~11.40	11.40~5.00
できる(運動目標)	12.24		15.00~12.19	12.19~9.55	9.55~5.00
まなぶ(認識目標)	12.10		15.00~11.56	11.56~9.08	9.08~5.00
まもる(社会的行動目標)	13.62		15.00~13.53	13.53~11.46	11.46~5.00
総合	51.62	総合	60.00~49.61	49.61~42.80	42.80~20.00

それぞれの項目において、「+」の状態を示しており、良好な状態であるといえる。しかし、「たのしむ」「できる」の項目が若干低い数値だったので、今回の学習では『運動や体を動かすことの楽しさ』や『運動ができるようになった喜び』といったものを味わわせようと思い、計画して実施していくことにした。また、個に視点を当ててみると、「ボール運動が苦手」という子が数名いたので、技術や動き方などをしっかり教えていきたいと思った。

### 【チーム作り・仲間作りの段階】

まず、チームで顔合わせを行い、キャプテン・記録・道具などの役割分担を行った。その後キャプテンを中心としながらチーム名やかけ声等を決めさせたり、練習の仕方などについて話し合わせたりした。そして、学習カードの書き方や学習の進め方などを説明し、今回の学習に対する意欲を高めさせた。子どもたちは大変意欲的に話し合い等を行い、「早くしてみたい」といった声が聞かれた。

### 【体の動かし方を知る段階】

ハンドボールというスポーツに初めて接する子どもが多いので、パスをつないでシュートをきめる競技であるという簡単な説明をした後、ボールに慣れるための動きやミニゲームを行った。最初にキャッチボールから始まり、次に四角パス、ボール回し鬼ごっこ、的当てシュートゲーム、3 on 2などを行い、体の動かし方を知らせた。

その際、それぞれのチームに積極的にに関わり、ボールの持ち方や投げ方・捕り方・動きなどを教えた。具体的には胸より上をねらって投げることや手をしっかり広げて捕ること・スペースを見つけてそこに動くことなどである。



【写真1 シュート練習】



【写真2 的当てシュートゲーム】



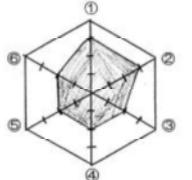
【写真3 四角パス】

このようなドリルゲームやミニゲームを通して、ゲームで使うスキルを向上させることをねらった。子どもたちは、最初は戸惑いながらも次第にゲームに集中して取り組んでいた。

【基本的な動きを身に付ける段階】

次はいよいよゲームをする段階である。ここでは今まで練習してきたことをゲームに生かしていくことが題字になってくる。また、友だち同士の教え合い・学び合いの場も設定することにより、友だちの動きを見る目を養うとともに、それを自分の動きに生かそうとした。さらにそのような場を設定することで言語活動の充実を図った。友だちにアドバイスをする際にただ書かせるだけでなく、見る視点を与えて書かせた。子どもたちはその視点をもとにしながら友だちにアドバイスを行っていたが、中にはもっとするどいアドバイスをする子どもがいた。また、ただ言うだけでなく具体的にこうしたらいいよといった動きをしながらアドバイスをする子どももいて、そういう姿を積極的に賞賛していくと子どもたちは次第に動きをつけながらアドバイスをする姿が見られた。

ハンドボール学習カード 1月23日(月) 3校時

<p>個人のめあて (チームの作戦を生かすために自分はどんな動きをするのか具体的に書く) 他のチームにボールをやらないうパスをつなぐ</p>	<p>チームのめあてに対して、自分はどんなことをがんばるのかを具体的に書く。</p>
<p>ゲームの記録をする人は次の点に気を付けてゲームを見てみよう。 ・いっしょうけんめいボールを過っかけたり、もらったりしようとしているか。 ・パスやシュートはねらったところに投げているか。 ・ボールを持っていないときの動きはどうか。(空いたスペースを見つけているか) など ・相手の動きをよく見て守ろうとしているか</p>	<p>友だちの動きを見るとき視点</p>
<p>ゲーム1の記録 (記録者: リキ)</p> <p>アドバイス (こうするといいよと思うことを伝えてあげよう!)</p> <p>せきよく的にホールにふれよう!</p> <p>結果 自分のチーム 1 対 相手のチーム 4 で (勝利 引き分け (負け))</p>	<p>友だちのプレーを見て、もっとこうすれば良いと思う事を書く。</p>
<p>ゲーム2の記録 (記録者: )</p> <p>アドバイス (こうするといいよと思うことを伝えてあげよう!)</p> <p>結果 自分のチーム 2 対 相手のチーム 3 で (勝利 引き分け (負け))</p>	
<p>☆☆☆今日の反省☆☆☆</p>  <p>①楽しくゲームをすることができたか。 ②自分のめあてを達成することができたか。 ③パスをもらいやすい位置に動いたり、シュートをしやすい位置に動いたりすることができたか。 ④自分がねらったところにパスしたり、シュートしたりすることができたか。 ⑤シュートがきまったか。 ⑥相手の動きをよく見て守ることができたか。</p>	<p>個人の反省を6つの観点で行い、それをレーダーチャートで表すことによって、視覚的になり、次へのめあてにもつながる。</p>
<p>次回のゲームに向けて(できなかったところ・良かったところはどんな所でしょう)</p> <p>ボールの取りやすいところに行ったり、相手のチームが持っているボールをパスされたりする</p>	<p>次のゲームに向けてがんばることを書き、次のゲームへの意欲化を図る。</p>

【資料1 個人カード】



【写真4 めあて決め】



【写真5 アドバイス】

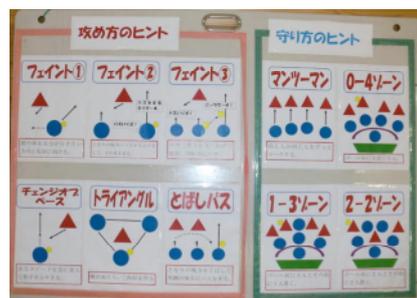


【写真6 動きをつけながらアドバイス】

この段階でのゲームの様相としては、ねらったところにボールを投げられなかったり、ボールをきちんと捕れなかったりとまだまだであるが、最初に比べるとだんだんゲームらしくなってきた。また、ボールを一生懸命追っかけている姿を見ることができてとてもうれしかった。しかし、個人としてもチームとしてもまだまだなので、チーム練習の時にしっかりとアドバイスをしていった。

【簡単な作戦を立て、ゲームに生かす段階】

この段階では、自分たちもしくは相手のチームの特徴に応じた作戦を立て、それをゲームに生かすことが大切になってくる。何もないところでは作戦が立てられないので、作戦ボードとおはじきに名前をはったもの・ホワイトボード用のマジックを用意し、おはじきを動かしたり、マジックで書いたりして作戦を立てやすいようにした。また、ヒントボードを用意し、それを参考にさせながら作戦を考えさせた。



【写真7 作戦を立てる】 【写真8 作戦を立てる】 【写真9 ヒントボード】

子どもたちは「敵がこうきたらこっちに動いてパスをしよう」とか「くんがくをマークして…」とか「自分たちのボールになったらさんがおもいきり走って」などと話し合いながら作戦を立てていた。また、ヒントボードを活用しながら「今日はフェイントを使って敵をだまそう」とか「今日のディフェンスは2-2ゾーンでいく？」などと言いながら話し合っていた。ゲーム1とゲーム2の間のゲームタイムの時には、負けたチームや作戦がうまくいっていないチームに積極的に声かけやアドバイスを行っていた。授業の最後に「今日の作戦がうまくいったチームは？」と聞くと、全部のチームが手を挙げていたのでうれしかった。子どもたちなりに作戦がうまくいった達成感を味わったようである。

この段階でのゲームの様相としては、次第にハンドボールのゲームらしくなってきた。ルールとしては「ドリブルなし」と「三步以上歩かない」を引き続き採用した。理由としては、ドリブルなしにした方がチーム全員でボールをつないでいくんだという意識が強くなると感じたし、ドリブルありにするとどうしても運動能力の高い子が目立ってしまうからである。結果どの子もボールをさわられたし、みんなでつないでいこうという意識が高まった。また、「パスをした後に走る」「あいたスペースを見つける」ように指導したところ、スペースを見つけながら走る姿を見ることができ、良い動きをするようになった。しかしながらまだまだボールを投げる・捕る技術がまだまだな子どもがいたので、課題が残るところである。

この単元が始まる前にそれぞれのチームで円陣のときのかけ声やはげましのかけ声・得点したときのかけ声等を決めた。具体的には「がんばるぞ！オーッ！」「どんまい」「ナイスシュート」と言ってハイタッチをするなどである。そのため、比較的体育が嫌いな子どもも安心して学習に取り組むことができたし、温かい雰囲気での学習が進められたのではないと思う。



【写真 1 0 円陣】



【写真 1 1 円陣】



【写真 1 2 ゲームの様子】

## 8 研究のまとめ

以上、実践してきたことを「研究の目標」及び「研究の仮説」に沿っていきながら、まとめをおこなっていきたい。

### 言語活動の充実について

それぞれのチームでめあてや練習方法を話し合ったり、作戦をたてたりする活動を取り入れたことは、言語活動の充実を図る上で大変有意義だったと思われる。また、その際に時間を保障したり、作戦ボードを活用したりすることも大変効果的であった。さらに「教え合い・学び合い」の場を設定し、動きを見る視点を与えてアドバイスをさせあったことも言語活動を充実させるために大変効果的であった。また、教師が積極的に話し合い活動に入り、声かけを行うこともできた。

### 授業評価について

評価については、観察により子どもたちの動きを見取り、それを具体的に賞賛したり、アドバイスをしたりして評価することにより、次時につなげていった。また、学習カードや話し合い・教え合いの場に入り込むことによって、思考判断の評価とし、これも次時へとつなぐことができた。

客観的な数値として、毎時間形成的評価を行い、それを分析することで授業の評価として次時の指導へとつなぐことができた。以下は形成的評価の項目と結果の考察である。

#### 《体育の授業について調査》

深く心に残ることや、感動することがありましたか？

今までできなかったこと（運動・作戦）ができるようになりましたか？

「あっ、わかった」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか？

運動の成果

精一杯、全力をつくして運動をすることができましたか？

楽しかったですか？

運動への関心・意欲

自分から進んで学習することができましたか？

自分のめあてにむかって練習することができましたか？

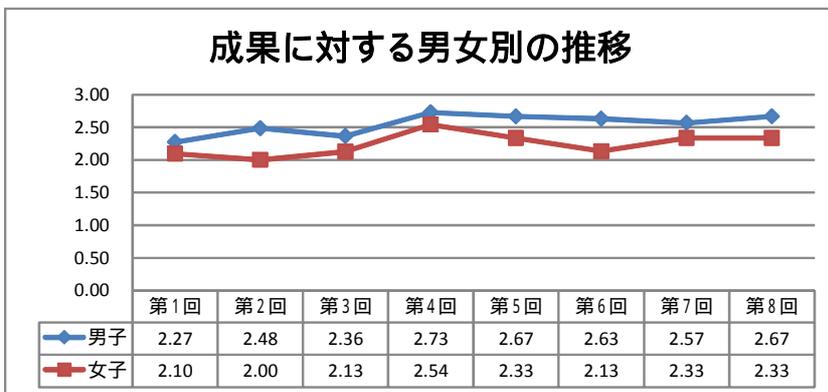
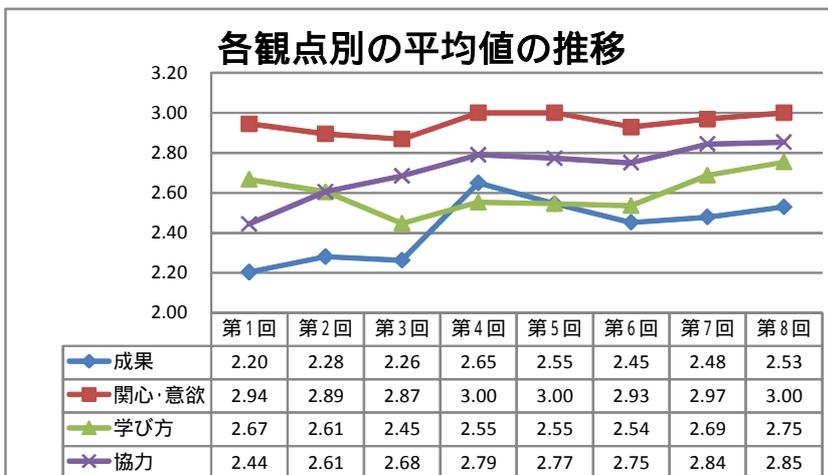
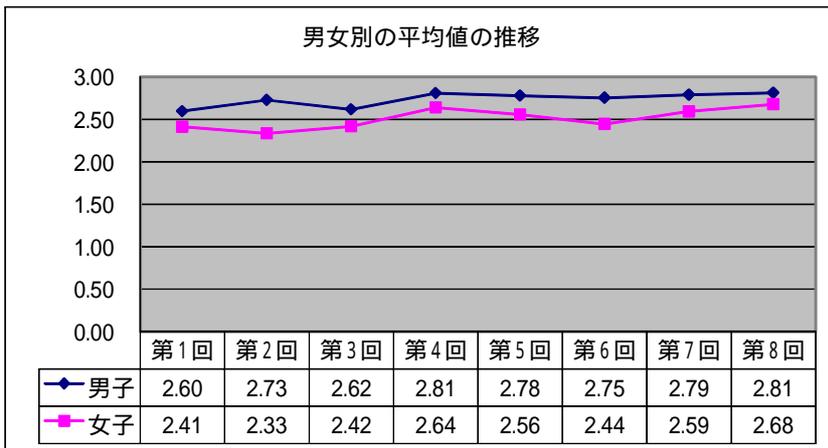
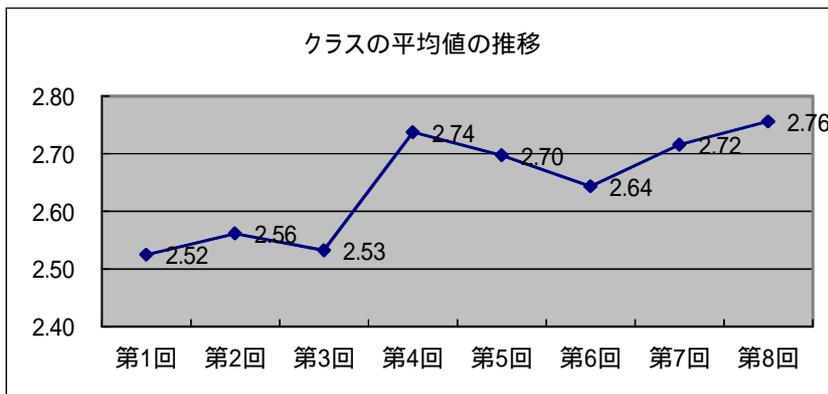
運動の学び方

友だちと協力して、なかよく学習できましたか？

友だちと互いに教えたり、助けたりしましたか？

運動への協力

「はい」を3点、「どちらでもない」を2点、「いいえ」を1点と計算してそれぞれの項目の平均点を算出。満点が3点。

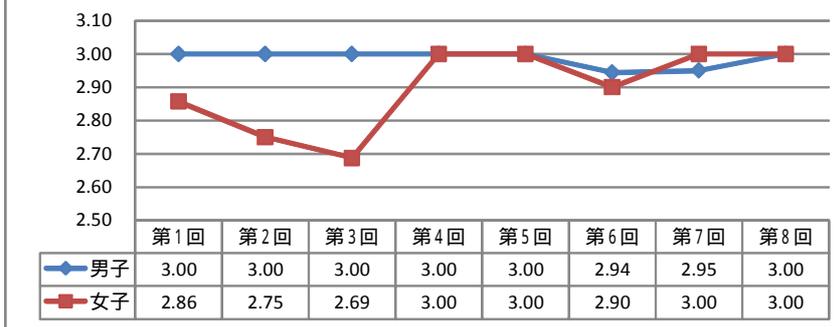


平均値の推移を見ると、第1回目から3回目までは低い数値だったのが、4回目になると上がっているのが分かる。これは、最初の段階では学習の進め方や体の動かし方が分からず、授業に対しての評価が低かったと考えられる。しかし、4回目以降は次第に慣れてきて、学習の進め方や体の動かし方が分かってきたからではないかと考えられる。

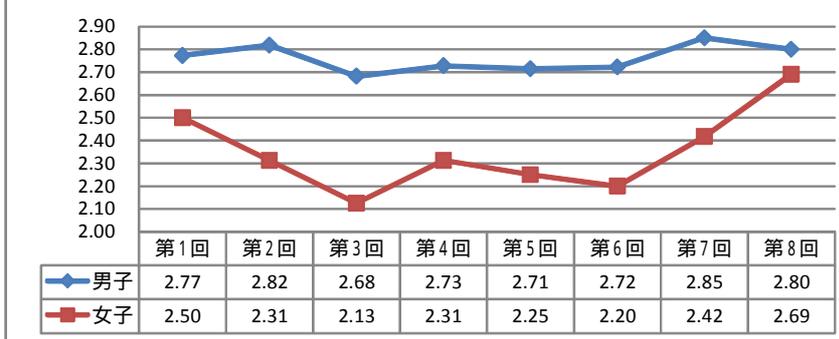
男女の平均値を見ると、男子は比較的高い状態で推移しているが、女子の方が若干低い数値で推移している。これは、男子に比べて女子の方が今回の授業に対しての評価が低いことになる。今後は女子に対してしっかり支援していかなければならないと感じる。

各項目の平均値を見てみると、「関心・意欲」は高い数値で推移している。どの子どもも意欲的に運動をしていたと言える。「協力」については、第3回以降から教え合い・学び合いの場が始まったので、それを境にして上がってきているのが分かる。「学び方」がだんだん下がっていったがまた上がっているのは、第3回目の数値を見た私がいままでいけないと思い、チームタイムの時間を多くとったからではないかと思う。このように途中で指導方法を反省し、修正することができたのは、とても良

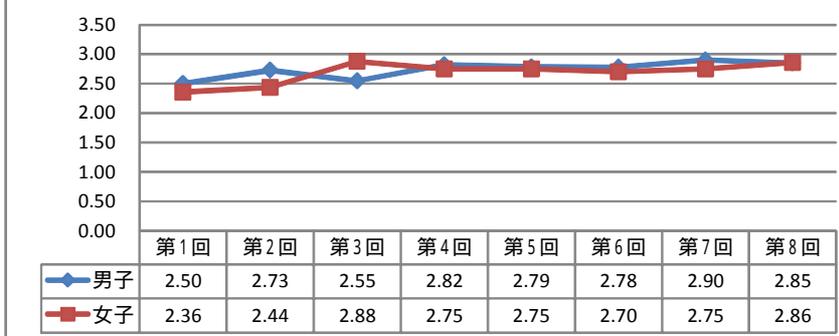
### 関心・意欲に対する男女別の推移



### 学び方に対する男女別の推移



### 協力に対する男女別の推移



かったと思う。ただ、「成果」の伸びが悪かったのは今後の大きな課題と感じる。成果の伸びが悪いと途中で気付いて、指導方法を修正したが、子どもたちに「できるようになった」「そうか」と思わせることができなかったのは、大きな反省点である。

各項目の男女別の推移でも男女の差が大きく出ているのが分かる。とくに「関心・意欲」は第3回目まで下降傾向だった。そこで、第4回目からは女子を中心に声かけやアドバイスをしていった。すると、4回目以降は女子も男子と同じくらいの高さで推移するようになった。「学び方」に関しては女子の方が低下していたので、時間を多くしたり、声かけをしたりするなど指導方法を修正したので、次第に上がってきたと思われる。「協力」に関しては、教え合いが始まった第3回目以降、男女とも高い数値で推移しており、お互いが協力し合って準備したり教え合ったり片付けたりすることができたと思う。

授業後に行った「総括的評価」は以下ようになった。

授業後に行った「総括的評価」は以下ようになった。

項目	結果		+	0	-
たのしむ(情意目標)	14.00		15.00~13.64	13.64~11.40	11.40~5.00
できる(運動目標)	12.50		15.00~12.19	12.19~9.55	9.55~5.00
まなぶ(認識目標)	12.60		15.00~11.56	11.56~9.08	9.08~5.00
まもる(社会的行動目標)	14.45		15.00~13.53	13.53~11.46	11.46~5.00
総合	53.55	総合	60.00~49.61	49.61~42.80	42.80~20.00

授業前と比べると「たのしむ」が13.67 14.00と0.33高くなっている。「できる」は12.24 12.50と0.26高くなっている。「まなぶ」は12.10 12.60と0.5高くなっている。「まもる」は13.62 14.45と0.83も高くなっている。

どの項目も授業後に高くなっているということは、この授業をやってみて良かったと思うし、授業が効果的であったと言えると思う。ただ、やはり「たのしむ」と「できる」の伸びが悪かったのは今後の大きな課題であると感じる。

## 9 成果と今後の課題

### 《成果》

言語活動を充実させるため、話し合いの場・教え合いの場の時間をきちんと確保したことは、子どもたちにも安心感を与え良かった。

どのようなことを言えば分からない子どもたちにとって、動きの見るための視点を与えたことは大変有効だった。

作戦を立てるときに、作戦ボードやヒントボードを用意したことは、話し合いがしやすく、大変良かった。

アドバイスをする時になかなか言えない子どもも書けば良いことを書いていたので、学習カードを工夫して書かせるようにしたのは良かった。

教師が積極的に声かけや賞賛、アドバイスをすることで、子どもたちもやる気が出て、できる喜びにつながったのではないかと思う。

診断的評価・形成的評価・総括的評価を使うことにより、指導の方向性を決めたり、指導の修正をすることができて大変良かった。

### 《課題》

「成果」「できる」の項目の伸びが悪かったので、今後は子どもたちの「できるようになった」とか「(動きのコツが)分かった」といった声がたくさん聞けるような支援の在り方をみつけていく。

言語活動を重視しすぎると、体を動かす時間が無くなる。やはり体育は体を動かさなくてはならない。今回は時間の半分くらいは体を動かしたが、どこの部分を話し合わせるのか重点を決めて言語活動をさせた方が良かった。

どんな評価方法でどんなことを評価していくのかという評価についての学習を進めていく必要がある。

## 参考文献

小学校学習指導要領解説 体育編  
体育の授業を創る 高橋健夫・著  
新しい体育授業の展開 宇土正彦・著